

事業を通じて社会的課題を解決する企業へ



SDGs Report

田島ルーフィングのSDGsへの取り組み



田島ルーフィング株式会社 SDGs 推進委員会

発行日：2025 年 10 月 31 日

【TAJIMA SDGs Report】

田島ルーフィングの SDGs への取り組み

目次

1. トップメッセージ
2. 全社 SDGs 方針
3. 重要課題
4. 活動のまとめ及び今後の取り組み
5. CO₂削減活動と成果
6. サプライチェーンマネジメント
7. 廃棄物削減(3R)活動
8. 働き方改革から始める SDGs
9. SDGs 活動の社内浸透
10. 今後の活動計画
11. SDGs 推進組織・体制

田島ルーフィングでは 2021 年度より SDGs に本格的に取り組む始め、2022 年年初に社員に向けて方針と取り組み内容を説明しました。その後、防水、床材、住宅建材の3事業部と管理本部の4部門でシナリオプランニングを通じて活動計画を検討してきました。

1. トップメッセージ



SDGs をスタートするにあたり私たち経営層が、まず理解し、全社的な取り組みとすることが必要だと考えてきました。どのように展開していけば良いのか、SDGs の理念を検討するにつれ、その理念と当社の経営理念、方針が一致していることがわかってきました。

サステナブルと「和・革新・技術」

改めて当社の事業内容を整理してみると、グループ会社と事業統合する以前から環境に関しては屋上緑化、断熱防水に取り組んできていますし、建物の長寿命化へ貢献、農業用塩ビフィルムの再利用、工場でも 530 活動、製品ロスのサーマルリサイクル利用、省エネ、CO₂排出量の削減に取り組んできました。100 年余の事業継続の中で育まれた様々な事業展開が、持続可能な社会の実現に向けた取り組みを求められる今、改めて注目されています。

日々の仕事が SDGs に繋がっていく

SDGs の重要課題(マテリアリティ)の解決に向けた施策は中期経営計画と紐づけていきます。また社員の働きがいの創出にも取り組みます。

営業が売るのが SDGs に繋がり、社員が仕事を効率よく進め、環境にやさしい取り組みをすることも SDGs に貢献しているように、私たちの日々の仕事そのものが SDGs に繋がっていることを社員全員に理解していただきたい。

社員へ期待すること

SDGs や中期経営計画に沿って仕事を進めることで、社員自身成長するし、会社も成長していきます。計画が達成できれば業績も上向いて社員に還元することもできます。そして社員が幸福度を高めってもらうことに繋がっていきたいと思っています。

今後とも SDGs の課題達成に向け、社員の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

代表取締役社長
松原 幸雄

2. 全社 SDGs 方針

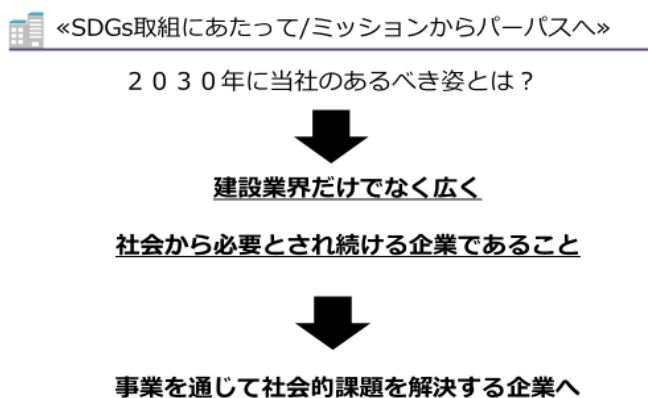
SDGs とは、持続可能(サステナブル)なより良い社会を目指す国際社会共通の目標です。一方で田島ルーフィングの事業は、これまで「防水、床材、住宅建材でよいモノを多くのお客様に使ってもらいたい」ということを目指していました。当社が SDGs に取り組むにあたり、改めて当社の事業目標を問い直し、当社の事業活動が人々のために、社会のために、環境のために役立つよう事業を通じて社会的課題を解決する企業を目指すこととしました。

また、当社の企業理念である「和・革新・技術」と、その目指す姿は、まさに SDGs の考え方と一致しており、当社のサステナビリティ方針は、この企業理念としました。

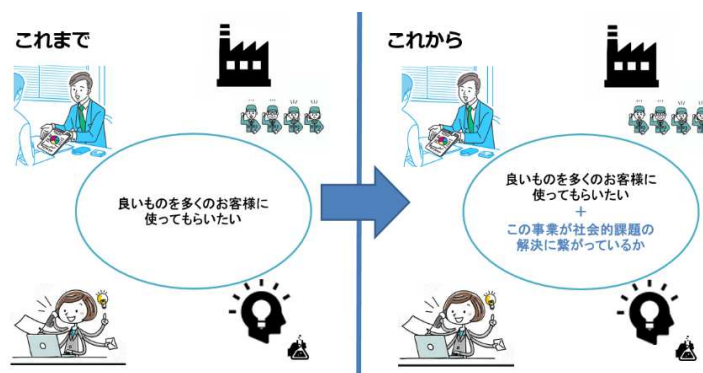
サステナビリティ方針 [企業理念]

私たちは豊かで快適に暮らせる生活空間の創造を通じて人々の幸福と社会の持続的発展に貢献することを目指します。

- (1) 私たちは人の和と同様に、これからも地球環境との和を考え続けます。
- (2) 私たちは昨日の姿に留まることなく、常に革新するしなやかな企業となります。
- (3) 私たちは快適で健康的な生活空間を守る技術創造のためにあります。



田島ルーフィングの「これまで」と「これから」



3. 重要課題

想定される未来(2030年)の姿に影響を及ぼす様々な要素を洗いだし、カテゴリー(PESTLE)に分類して、その中から当社にとって不確実性と影響度をふまえて、重要課題を再設定しました。

【2030年に向けたサステナビリティに関する重要課題とSDGsの関連性】

	企業理念とパーパス		重要課題（マテリアリティ）	SDGsとの関連
ステークホルダーの期待に応える課題	和	人の和を築き人を育てる	①新しい働き方の創出とダイバーシティの実現 ②人材教育	     
		地球環境との共生	③CO2排出削減 ④廃棄物削減&循環型社会への対応	    
事業を通じて社会的課題を解決する	革新/技術	新たな事業機会への挑戦	⑤CO2排出削減に寄与する製品開発 ⑥労働力不足に貢献する製品開発 ⑦防災・気候変動に貢献する製品開発	       
		快適で健康的な生活空間を守る	⑧快適で健康的な生活空間に繋がる製品開発	    

4. 活動のまとめ及び今後の取り組み

(1) 活動結果

SDGs 活動については、シナリオプランニングの作成及び 2024 年からの中期経営計画重要課題の見直し(追加)作業をメインに行いました。これらの重要課題をロードマップに反映することで、日常の業務が SDGs に繋がっていることを社員が常に意識できる様に、またバックキャスト的な視点からよりダイナミックな方針を立案してゆく心がけを持てるようにしました。

重要課題:ステークホルダーの期待に応える課題「和」

1)人の和を築き、人を育てる

- ① 新しい働き方の創出とダイバーシティの実現
- ② 人材教育

2)地球環境との共生

- ③ CO₂ 排出削減
- ④ 廃棄物削減 & 循環型社会への対応

重要課題:事業を通じて解決する社会的課題「革新／技術」

3)新たな事業機会への挑戦

- ⑤ CO₂ 排出削減に寄与する製品開発
- ⑥ 労働力不足に貢献する製品開発
- ⑦ 防災・気候変動に貢献する製品開発
・土木・インフラ市場への取り組み強化
隣接他業種との協業促進

4)快適で健康的な生活空間を守る

- ⑧ 快適で健康的な生活空間に繋がる製品開発

課題詳細:メーカーとして取り組むべき製品開発の具体的なカテゴリ(例示)

- 「労働人口不足解消」「施工がしやすい」「快適性・健康につながる床材」
- 「物流におけるドライバー不足」
- 「CO₂削減」「CNL・非化石電力の導入」
- 「製造現場における人員不足」
- 「二酸化炭素軽減製品」
- 「3R」「自然を建材に」「廃棄物の削減」
- 「テレワークの更なる活性化」

課題整理:現行テーマを見直し、社員の意識への浸透を図るために抽出された課題

- ◆ 安定した製品供給体制を構築する
- ◆ 環境規制が強化されることを想定して、持続可能な生産拠点を検討する
- ◆ 住宅メーカーの施策(プレハブ化, BIM 活用, 3D プリンタ等新技術の導入)に伴い、防水機能のサプライヤーとして追従できるように情報収集～技術の構築まで、適時柔軟に追従していく
- ◆ 人口減少, 新築住宅減の中で、既築住宅再活用(空家, リノベ住宅等)を担う事業者、防水機能のサプライヤーとして深く関わる

5. CO₂削減活動と成果

2013年を基準年度として2030年に CO₂ 排出量を50%削減することを目標とし、2017年から省エネルギー対策等で毎年度 CO₂ 発生量の削減を続けています。その結果、2024年度の CO₂ 排出量は前年比さらに削減され、42.7%削減を達成しました。(Scope 1, 2)

今後も継続して目標としている2030年の CO₂ 排出量50%削減に向け、自社における省エネルギー対策を進め、これまで見過ごされていた無駄なエネルギー消費を削減し、非化石電力の導入工場を増やして削減を推進します。

* Scope 1, 2: 全社工場、本社、営業所の電力、燃料、ガソリン使用による CO₂ 排出量

(1) 削減施策

① エネルギー効率の向上

・省エネ活動

(不要照明の消灯、エアコン設置温度、運転時間管理、コンプレッサー吐出圧の適正化、設備空転時間の削減(ボイラー、コンプレッサー、ミキサー、フロア他))

・設備の省エネ化(設備更新: 照明 LED 化、空調機、高効率モーター)

・設備の改善検討(ボイラーガス化と CNL 契約を検討)

② 再生可能エネルギーの導入

・再生可能エネルギーの導入継続(非化石電力契約)及び太陽光パネルの設置検討

③ 燃料の削減

・燃料の使用量の削減

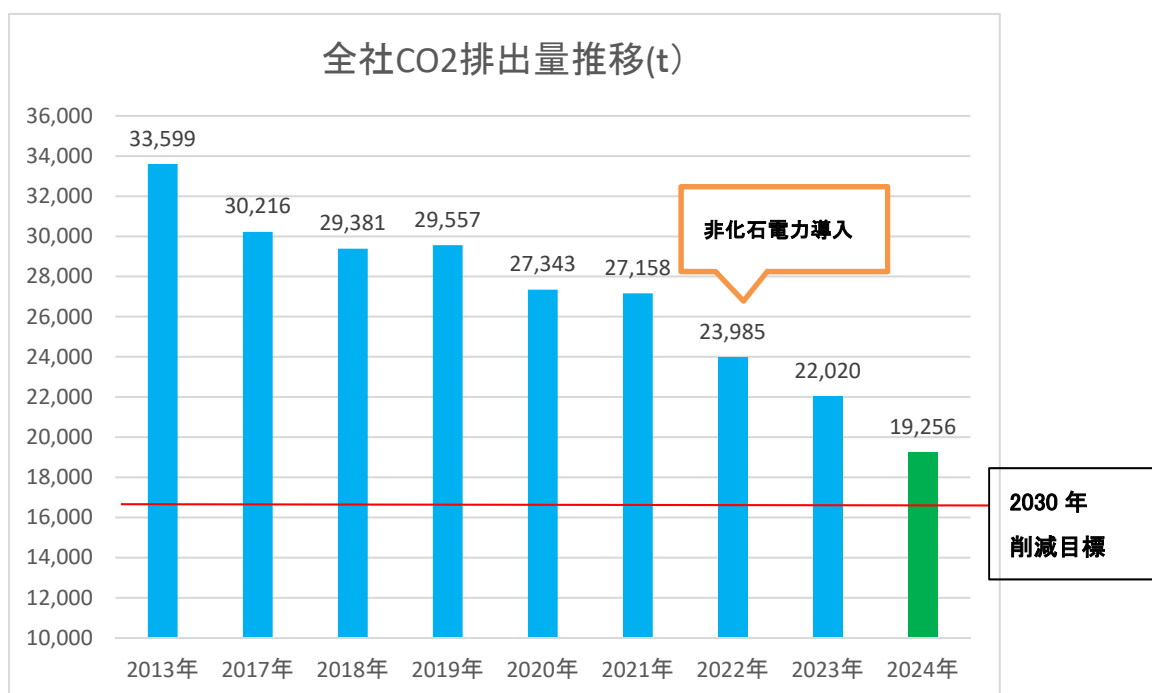
④ ログ・アウトプットの削減

・製品及び半製品不良率の削減

⑤ GX(グリーントランスフォーメーション)リーグへの参画

・GX リーグは 2050 年カーボンニュートラル実現と社会変革を見据えて、現在および未来社会における持続的な成長実現を目指す企業が同様の取組を行う企業群を官・学と共に協働する場

(2) 全社 CO₂ 排出量の推移



	2013 年 基準年	2017 年	2018 年	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年	2025 年 (目標)	2030 年 (目標)
CO ₂ 排出量 (t/年)	33,599	30,216	29,381	29,557	27,343	27,158	23,985	22,020	19,256	21,740	16,800
削減率(%)		10.1	12.6	12.0	18.6	19.2	28.6	34.5	42.7	35.3	50.0

(3) 今後の活動内容

2025年度も引き続き、省エネ活動により無駄を省き再生可能エネルギー導入の拡大とCO₂排出量削減を進めます。また、2023年に参画したGXリーグについても2030年までのCO₂排出量削減目標を設定しました。2024年のCO₂排出量削減実績は、GXリーグに報告し、当社の実績がGXリーグのダッシュボードに掲載され公開されます。

① エネルギー効率の向上

- ・省エネ活動(熱媒、蒸気配管の見直しによる効率化(不必要設備への供給停止)
蒸気、エアー配管の修繕により洩れ対策、不要時の運転停止など)
- ・設備の省エネ化(高効率モーター導入、インバータ制御、超高効率変圧器の検討及び
低負荷時の台数制御、ボイラー燃転検討など)
- ・設備の改善および不要設備の廃止
- ・生産プロセスの見直し
- ・エネルギー管理システム(可視化)の導入、デジタル技術の活用検討

② 再生可能エネルギーの導入検討

- ・小台工場、宮城工場に続き、埼玉工場、石岡工場に非化石電力を導入します。
- ・つくば工場太陽光パネルの設置検討

③ 燃料の削減

- ・燃料の使用量の削減(ボイラー等の運転時間、管理温度・圧力の見直し)

④ ログ・アウトプットの削減

- ・製品及び半製品不良率の削減
- ・製品、原材料の統廃合、他号機への生産移管

⑤ エネルギー管理体制の構築検討(8 工場の統制)

- ・エネルギー原単位の目標値設定
- ・エネルギー管理システム(管理体制、運転管理、エネルギーの可視化、
エネルギー原単位、保守管理、計測・記録など)

6. サプライチェーンマネジメント

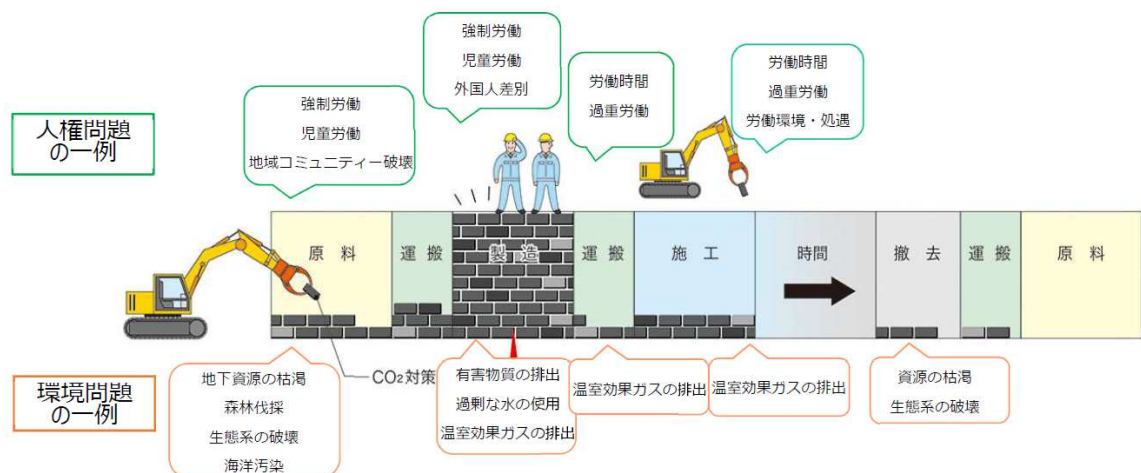
当社が SDGs に取り組むうえで「サプライチェーン(※)」について考える必要があります。
当社でもサプライチェーンマネジメント委員会を立ち上げました。

※ サプライチェーンとは

サプライ(供給)チェーン(連鎖)。モノの流れに着目して、原材料・部品の調達から生産、流通、販売、消費者に届くまでのプロセス

下図に示されたように当社が SDGs に取り組むうえで自社だけでなく関係する川上、川下のパートナーまで含めて目を配り、問題点を取り上げ、その課題に取り組む必要があり解決していく必要があります。

当社のサプライチェーンのモデル図



また近年はサプライチェーンにおける人権問題、環境問題についてステークホルダーの関心が高まっています。自社やグループ会社の調達先だけでなく、サプライチェーン全体で持続可能な調達を実現し、社会的課題の解決に寄与していくことが求められています。

このように今後当社が SDGs に取り組むには、サプライチェーンを考慮して川上、川下の取引先とともに課題に取り組むことが必要になります。

一方で建設業界は一般消費財の業界に比べてライフサイクルが長く、連鎖の結束力が弱いことから、カーボンニュートラルやゼロエミッションに対するサプライチェーン全体としての成果が出しにくい事業の形態となっています。

そこで、当社ではまず 2030 年に向けて、自社のカーボンニュートラルとゼロエミッションの目標を定め、取り組みを進めると同時に、サプライチェーンの川上・川下の状況を定期的なアンケート(労働環境の調査含む)を実施し把握しました。

(1) 当社サプライチェーンの CO₂ 排出量削減への取り組み調査

2020 年 11 月に当社の取引先(原材料購入先、商品購入先)に「サプライチェーンにおける CO₂ 排出量削減の取組み調査について」を行い、続いて 2020 年 12 月に「サステナビリティ調達調査」を行いました。

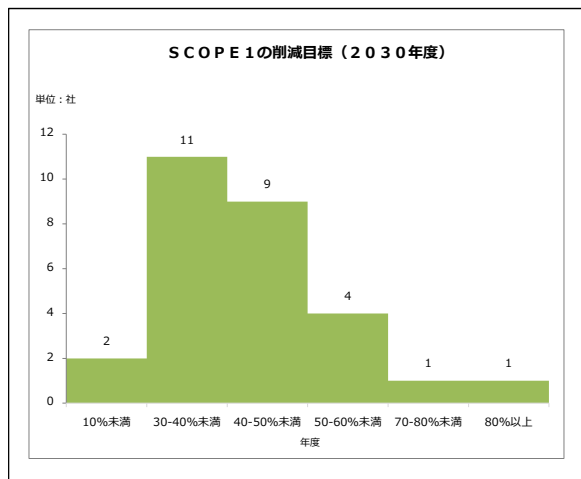
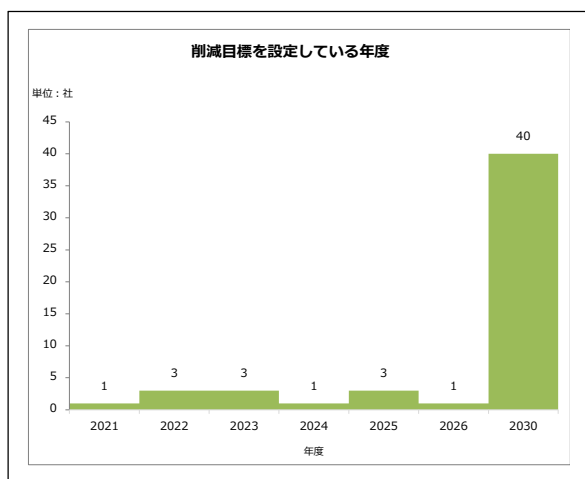
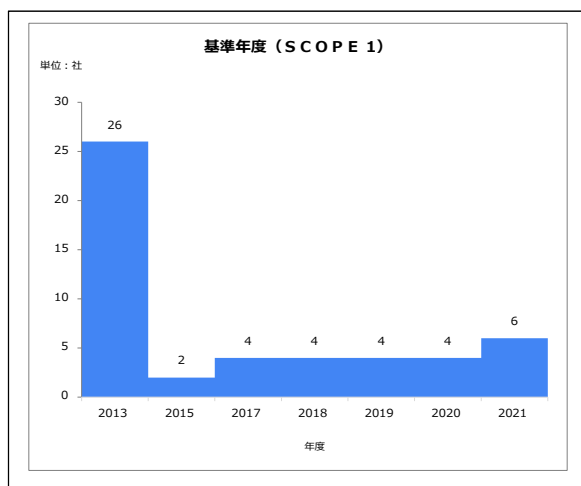
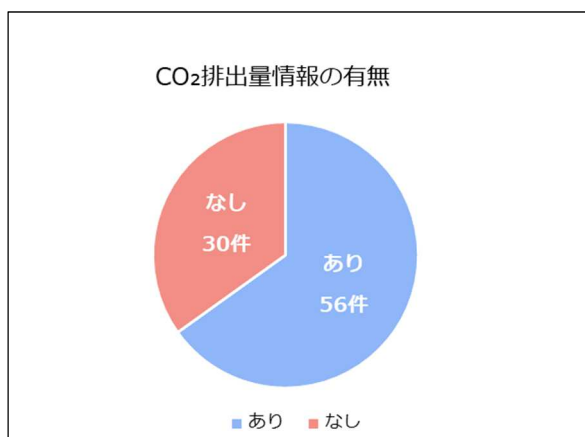
そして、2022 年 11 月に再び対象となる企業を再度精査し、「サプライチェーンにおける CO₂ 排出量削減の取組み調査について」を実施しました。

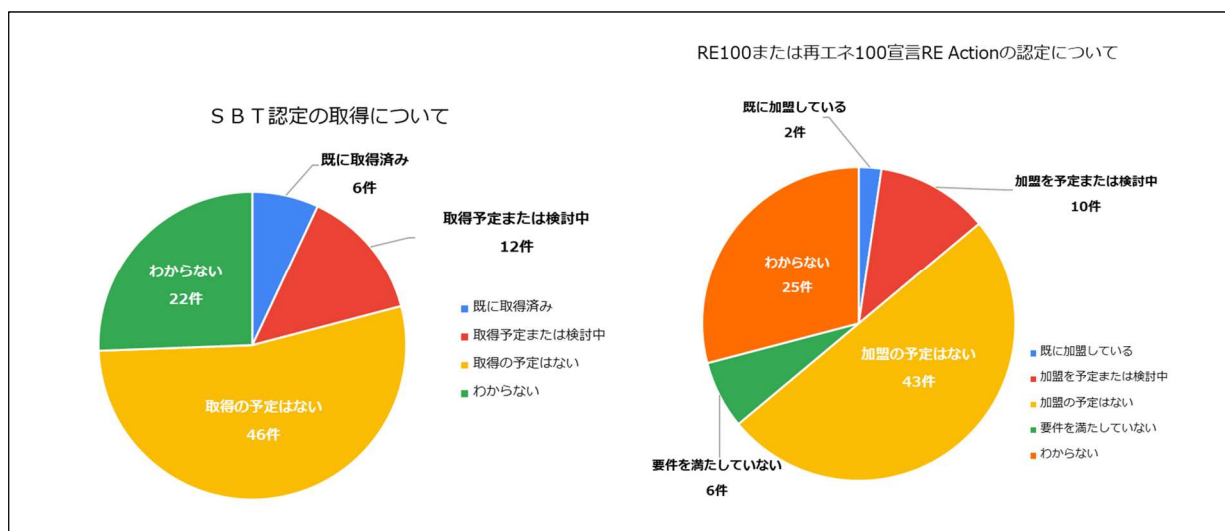
原材料の購入先のメーカー・商社 120 社、商品購入先のメーカー・商社 34 社に調査を依頼し、86 社から回答を得ました。

(2) 調査結果

■ 調査結果概要

- ・CO₂ 排出量の把握: 86 社中 56 社 (65%)
- ・CO₂ 削減目標: ①削減目標の設定: 86 社中 54 社(63%)
 - ②基準年度: 2013 年 50 社中 26 社(52%)
 - ③削減目標年度: 2030 年 54 社中 40 社(74%)
 - ④2030 年目標の削減率: 30%~40% 28 社中 11 社(39%)
 - 40%~50% 28 社中 9 社(32%)
 - 50%~60% 28 社中 4 社(14%)
 - * 当社目標





(3) 結果に対するコメント

当社サプライチェーンの取引先の 3 分の 2 は、CO₂ の排出量を把握しており、半数近くの取引先は削減目標を設定しています。しかし、政府の目標は 2030 年に 2013 年度比 46% の削減を目指しており、取引先の削減目標値は 40% 未満の企業も多く、政府目標を達成するには今まで以上に取引先との協力体制を強化し、温室効果ガスの削減に努めていく必要があります。

また、外部の評価機関(EcoVadis(*))での評価を要求されるケースも見られます。

このように取引先からの要求として企業に社会的責任にどのように取り組んでいるかを求められるようになってきています。

* EcoVadis(エコバディス)・・・サプライチェーンCSR評価システムを提供するフランスの会社。

実績は世界で 9 万社以上、日本約 3,500 社超と言われる

7. 廃棄物削減(3R)活動

(1)活動結果

2023年度 廃棄物削減(3R)活動は以下の通り進め、総排出量(産業廃棄物＋有価物)は対前年で－27t／年(4483t→4456t)の微減という結果でした。

① Reduce(排出削減)

- ・製品の設計見直しによる素材の最適化や、製造プロセスの改善によるエネルギー消費量や廃棄物の削減(スリット幅見直し、フィルム化、軽量化、ストレナー交換頻度見直し、他)
- ・各層の同時つなぎによるつなぎ屑削減。
- ・生産計画の見直し、品種削減による切り替え回数や屑の削減。
- ・原材料の受け入れ荷姿変更 紙袋→フレコン フレコン→ダンプ車 等
- ・廃棄物の屋外保管方法改善による排出量削減

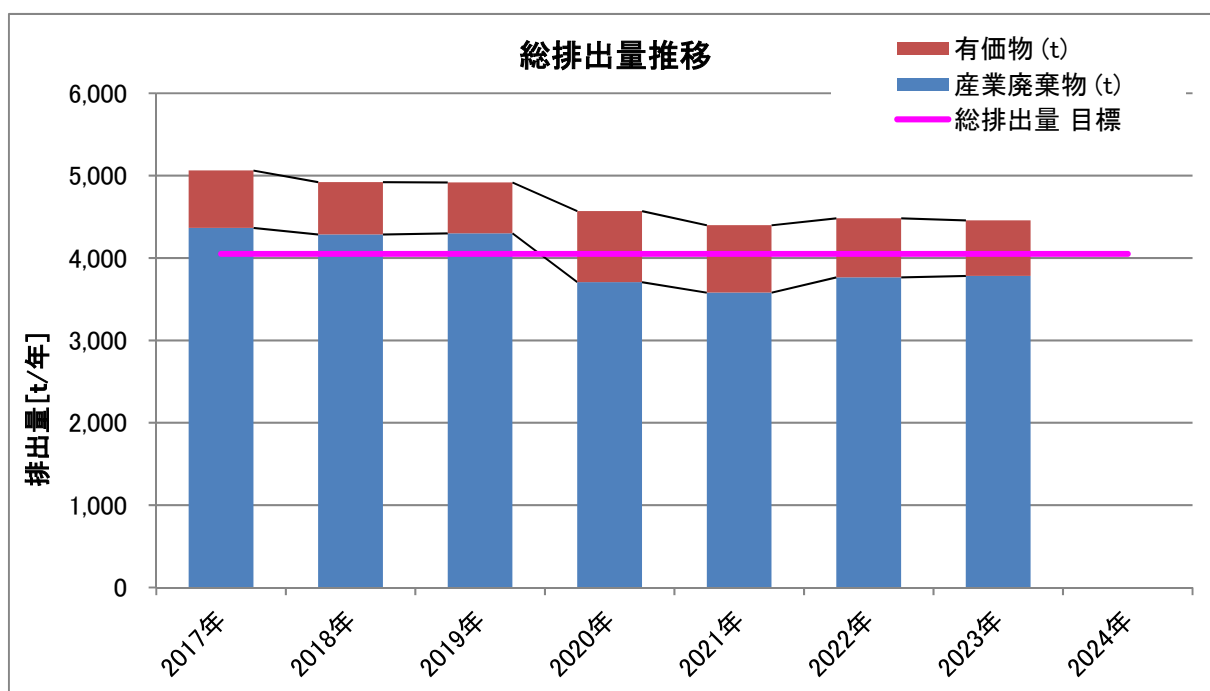
② Reuse(再利用)

- ・製品や部品の再利用や再生を促進するためのプロセスや設計見直し(UV 塗料回収方法の見直し他)
- ・床材破碎後の分別精度向上による原料戻し
- ・抜き出しコンパウンドや粘着材、砂粉の原料戻し
- ・廃棄物を原材料として再利用するためのリサイクル技術の検討

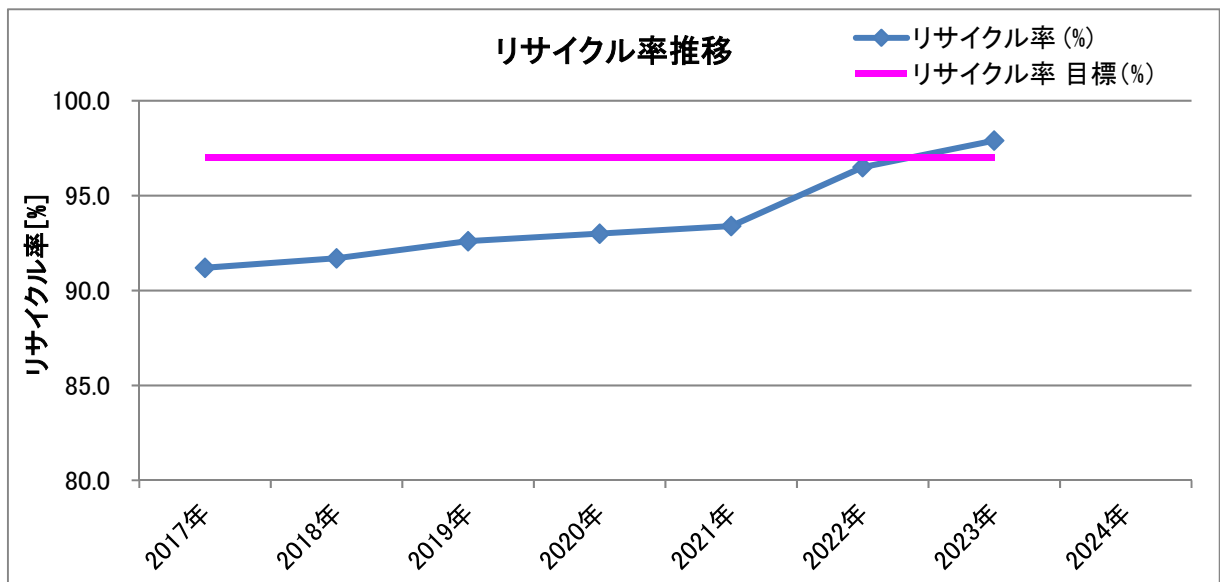
③ Recycle(リサイクル)

- ・埋め立て処理から環境負荷の少ない外部リサイクル(RPF・セメントリサイクル)の推進
綿屑 埋め立て → RPF リサイクル、セメントリサイクル
UV 塗料缶 埋め立て → 金属有価物
- ・分別の推進によるリサイクルの最適化

■総排出量とリサイクル率の推移 <2017～2023年度 生産本部 8工場>



※総排出量…産業廃棄物 ＋ 有価物の合計量



(2) 今後の活動計画

① Reduce (削減)

- ・製品の設計見直しによる素材の最適化や、製造プロセスの改善によるエネルギー消費量や廃棄物の削減
- ・原材料の仕入れ量の削減、製品統合など在庫管理の改善による製品、原材料の廃棄削減
- ・原材料の受け入れ荷姿変更、梱包材変更による廃材削減

② Reuse (再利用)

- ・製品や部品の再利用や再生を促進するためのプロセスや設計の見直し
- ・分別精度向上による原料戻しの推進と適用拡大
- ・廃棄物を原材料として再利用するためのリサイクル技術、設備の検討
- ・廃棄物の再資源化に向けた技術開発の推進

③ Recycle (リサイクル)

- ・環境負荷の少ない外部リサイクル手段の模索、推進
- ・廃棄物の分別や選別の改善による再資源化の促進

(3) 生産本部 SDGs としての評価項目検討

(現状は CO₂削減、産業廃棄物削減、ゼロエミッションの評価)

- ・社員がいいきと働く環境づくり(総務部と連携)
作業環境改善、労働時間の平準化、多様性、安全確保(労災撲滅)、健康管理、人材育成、その他
- ・サーキュラーエコノミー実現に向けた活動(開発部と連携)
- ・サプライチェーンマネジメント(サプライチェーンマネジメント委員会と連携)
- ・快適で健康的な生活空間を守る(品質向上やクレーム削減による評価、顧客満足度評価)
- ・DX による生産活動やサプライチェーンの効率化(全社 DX 推進プロジェクトと連携)
- ・強靱な生産体制の構築(BCMS、セキュリティ強化、その他)
- ・ESG 評価(エコバディス等の評価)
- ・その他

8. 働き方改革から始める SDGs

(1) 活動結果

推進メンバーがシナリオプランニングの作成に着手。4つのシナリオを検討し、重要課題として下記の7つを取り上げることを決め、KPI の設定、世間水準などを参考にした目標値の検討を進めました。

さらにヒアリングによる意見などを踏まえて、次期中期経営計画に重要課題の素案を固めました。

重要課題	項目
生産年齢人口の減少に対する多様な働き方、ダイバーシティの推進により、誰もが働きやすい職場環境、企業文化の醸成	働き方改革
	ダイバーシティ
	健康経営への取り組み
地球環境との共生、CO ₂ 削減	ペーパーレス
	CO ₂ 削減
SDGsに取り組む機運を高め理解度を上げる、取り組みによりモチベーション、モラルの向上、SDGs取り組みの社内外への発信	社内普及・啓蒙

(2) 今後の活動計画

① 人事制度の改善

3 期目となる新人事制度の改善とともに、目標管理シートを見直し組織の成果のほか、自身のキャリアと成長の支援に寄与する書式に変更しました。

② 新しい働き方の模索

女性の活躍、高齢者就労、障がい者雇用など労働力の確保の点から注目されています。多様な人材と一緒に働くことで組織を活性化させる、多様な個が同じ目標に向かった時にイノベーションが生まれる、といった人材戦略も視野に、あらゆる社員が働き続けられるよう、新しい働き方の模索を続けていきます。

③ 人材教育と社員の成長支援

社員一人ひとりの成長を考え、成長に必要な教育の提供を増やしていきます。

9. SDGs 活動の社内浸透

(1) 重要課題の浸透に向けての施策

前述の通り 2024 年度からの中期経営計画策定に向け、その準備として 2023 年度の経営計画から重要課題と連動したロードマップの作成を各プロジェクトでおこなった。

SDGs の重要課題を示すアイコンを作成し、ロードマップの課題と SDGs の重要課題を紐づけ、関連性をわかりやすく示しました。

企業理念とパーパス		全社重要課題	
和	人の和を築き 人を育てる	①新しい働き方の創出と ダイバーシティの実現	 ダイバーシティ 新しい働き方
		②人材教育	 人材教育
	地球環境 との共生	③CO2排出削減	 CO ₂ 削減
		④廃棄物削減& 循環型社会への対応	 循環型社会
革新 / 技術	新たな事業機会 への挑戦	⑤CO2排出削減に 寄与する製品開発	 CO ₂ 削減
		⑥労働力不足対策に 貢献する製品開発	 労働力対策
		⑦防災・気候変動対策に 貢献する製品開発	 防災対策
	快適で健康的な 生活空間を守る	⑧快適で健康的な 生活空間に繋がる製品開発	 快適健康

(2) 当社 SDGs 活動推進のための社内広報誌“STGs MAGAZINE”※発行。

※STGs MAGAZINE…「Sustainable TAJIMA's Goals」の略。

SDGs の取り組みや様々な情報を社員向けに配信することを目的に

2022 年度 9 月の創刊号から 2024 年度 7 月に Vol.10 まで発刊しました。

・Vol.1: 創刊号 トップ方針

社長インタビュー、全社活動状況、発見 STGs「ペーパーレス」

・Vol.2: 住建事業部特集号

住建事業本部長・副本部長・住建生産部長対談、視察

住建事業部活動、発見 STGs「節電 小台第二工場、石岡工場」

・Vol.3: 防水事業部特集号

営業本部長・防水営業副部長インタビュー

防水事業部活動状況、発見 STGs「希望プロジェクト制」

・Vol.4: 床材事業部特集号

開発本部長・床材営業副部長インタビュー

床材事業部活動状況、発見 STGs「産業廃棄物削減 埼玉第二工場」

・Vol.5: サプライチェーンマネジメント特集号

サプライチェーンと SDGs

サプライチェーンマネジメント当社の取り組み

サプライチェーンマネジメント委員会からの一言

・Vol.6: 管理本部特集号

管理本部長・総務部長対談

管理本部活動状況、発見 STGs「支えあう職場 ビジネスサポートグループ」

・Vol.7: 生産本部特集号

生産本部の SDGs 重点課題と 2022 年結果と 2030 年目標

CO₂ 排出削減、廃棄物削減(3R)活動 2022 年度活動内容と 2023 年度活動

発見 STGs「省エネ意識の向上 埼玉工場」

「廃棄塗料缶削減 石岡工場」

「カーペットタイル工場内リサイクル 岡山工場」

・Vol.8: 2023 年の全社取り組み成果と 2024 年の取り組み 2024 年 3 月 15 日発行

2023 年の取り組み

2024 年の取り組み

発見 STGs「タディスセルフカバー粘着剤再利用 宮城工場 R1 号機」

「エアーを見直して CO₂ 排出量削減 埼玉第二工場巾木工程」

「産業廃棄物フルトレーラー運搬で 2 倍、そして時間短縮 石岡工場」

「PV-EXPO2024 出展しました ソーラーワーキング」

「原材料の一部に卵の殻再利用したバイオマススタイル「ツチナギ」モノ working」

「夏の熱さもなんのその、軽くもしますよ「タディスホワイト」下葦材プロジェクト」

「就労体験を通じ、自身に適した仕事を見つけるきっかけづくりに貢献します 総務部業務支援課」

10.今後の活動計画

(1)次期中期経営計画との連動

次期中期経営計画を進めるにあたり、サステナビリティ方針：企業理念を念頭におき全事業が取り組んでいく。

サステナビリティ方針 [企業理念]

私たちは豊かで快適に暮らせる生活空間の創造を通じて人々の幸福と社会の持続的発展に貢献することを目指します。

- (1)私たちは人の和と同様に、これからも地球環境との和を考え続けます。
- (2)私たちは昨日の姿に留まることなく、常に革新するしなやかな企業となります。
- (3)私たちは快適で健康的な生活空間を守る技術創造のためにあります。

(2)重要課題(マテリアリティ)に対する具体的施策

各部門の重要課題は、次期中期経営計画に盛り込み、計画期間の3か年で達成するものもあるが、さらに2030年を目指した長期出来課題も含まれる。

また各事業は2023年度から次期計画に向けた準備期間として課題をスタートさせる。

(3)環境対応の推進

①CO₂削減の推進 “GXリーグ参画”

2023年度より当社もGXリーグに参画し、2030年までのCO₂削減量の目標と達成に向けたロードマップを策定します。

当社の社内エネルギー使用量の削減と非化石電力の導入、再生可能エネルギーの活用を検討する。

サプライチェーンへの働きかけ、当社製品の環境への貢献度を示す。

②廃棄物の削減、リサイクルの推進

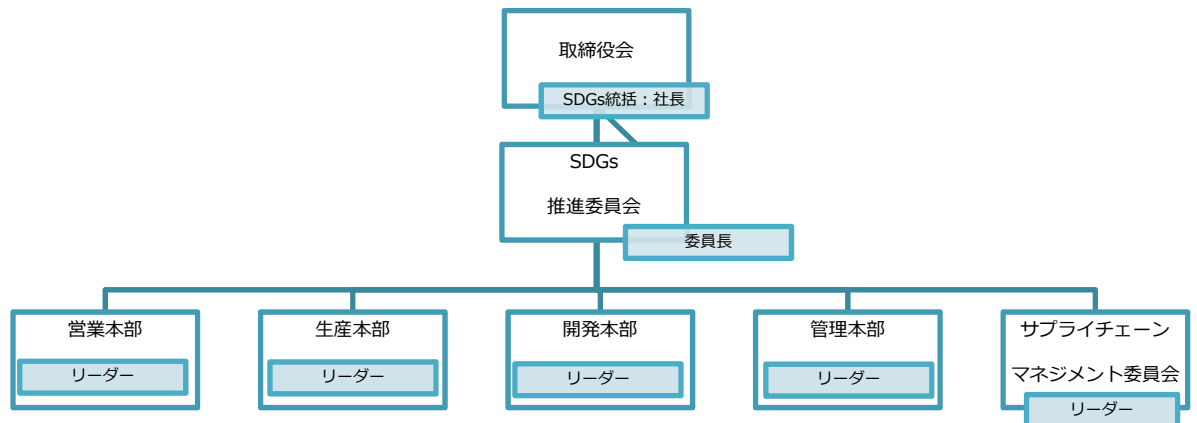
社内で発生する製品ロス等の廃棄物を削減し、発生したロス等をリサイクルすることで産業廃棄物の外部持ち出し量をなくして、全8工場のゼロエミッションを達成する。(リサイクル率97%以上)

※リサイクル率・・・(社内リサイクル量 + 外部リサイクル量 + 有価物量) / (総発生量 + 社内リサイクル量) × 100

(4)社内浸透と啓蒙

当社の業務目標や中期経営計画を遂行・達成することが、すなわちSDGsに取り組むことに繋がっていると社員全員が認識し、これらの重要課題を達成することが自らの働きがいや幸福のためであり、周辺の環境と社会に貢献できるということをトップメッセージとして伝え、常に社員が自覚している状態を目指す。

11. SDGs 推進組織・体制



以上